# 令和6年度　学習分析事業　改善計画シート　三原市立田野浦小学校

【別紙】

1　本年度の結果

①学力定着分析　NRT　偏差値平均（全国を50とする）

| | | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国語 | 前年度結果<br>偏差値平均 | | 48.4 | 50.7 | 45.3 | 49.4 | 48.6 |
| | 本年度結果<br>偏差値平均 | 47.5 | 46.3 | 47.7 | 46.7 | 48.5 | 47.4 |
| 算数 | 前年度結果<br>偏差値平均 | | 48.1 | 50.2 | 47.2 | 48.8 | 48.8 |
| | 本年度結果<br>偏差値平均 | 50.4 | 45.6 | 49.9 | 47.9 | 47.7 | 48.2 |
| 理科 | 前年度結果<br>偏差値平均 | | | | 45.3 | 48.9 | 47.8 |
| | 本年度結果<br>偏差値平均 | | | 47.2 | 47 | 47.8 | 47.4 |
| 全体 | 前年度結果<br>偏差値平均 | | 47.8 | 50.5 | 45.8 | 49 | 48.5 |
| | 本年度結果<br>偏差値平均 | 49 | 45.7 | 48.3 | 47.2 | 47.9 | 47.5 |

②全国学力・学習状況調査　正答率平均（第6学年対象）

| 教科 | 国語 | 算数 |
|---|---|---|
| 前年度結果<br>（対県比） | 64<br>(−5) | 58<br>(−6) |
| 本年度結果<br>（対県比） | 66<br>(−3) | 60<br>(−4) |

2　令和5年度について

①調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】（NRTをうけて）
【国語】評定1の児童26名　正答率40%未満の児童44名　【算数】評定1の児童32名　正答率40%未満の児童40名
各学年での全国平均との差が大きかった問題は以下の通り
【国語】2年「文章に合う図を選ぶ」（20%　全国比−20）3年「話し合い・提案」（49%　全国比−10）、「片仮名（ピューピュー）」（26%　全国比−10）4年「国語辞典の使い方」（36%　全国比−32）5年「要旨の読み取り」（40%　全国比−18）6年「漢字の読み（志）」（24%　全国比−29）
【算数】2年「場面から減法の計算」（30%　全国比−15）3年「三角形を描く」（44%　全国比−12）、「四角形を描く」（43%　全国比−12）4年「棒グラフの読み取り」（31%　全国比−28）5年「三角定規を用いた角」（36%　全国比−21）6年「除法の結果と分数」（18%　全国比−26）
領域別でみると、国語、算数共に、学年ごとに課題のある領域が異なることが分かった。

【年度当初の学力について】（全国学力・学習状況調査をうけて）
●国語科における課題は以下の通り
「配当学年の漢字を書く『いがい』」（41.3%　対県比−12）
「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」（20.6%　対県比−8.4）
「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える」（68.3%　対県比−7.5）
●算数科における課題は以下の通り
「台形の意味や性質についての理解」（46%　対県比−16.9）
「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断する」（7.9%　対県比−12.6）
「加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりする」（61.9%　対県比−11.3）

②課題改善に向けた学校組織全体の重点目標・取組

| 重点目標　（何を、どの程度達成するか） | 達成のための具体的取組　（どのようにして） | スケジュール | 検証の指標・目標 |
|---|---|---|---|
| 【授業改善を通した学力・学習意欲の向上】<br>〇全学級において、学習規律の徹底を図る。<br>〇全教職員が「ユニバーサルデザインの授業」を柱とした「全員が分かる」授業づくりを行う。<br>〇全教職員が、算数科を中心とした児童の思考を深める発問構成の工夫を行う。<br>〇全教職員が、個に応じた指導方法の工夫と学習意欲の向上を図る。<br>〇全教職員が、全国学力学習状況調査を生かした授業づくりを行う。 | ①NRT結果の分析による、各学級・学年の課題の把握と改善計画の立案<br>②学習規律の重点取組項目の設定と取組期間の設定<br>③ユニバーサルデザインの授業を基本とした授業づくり<br>→「対象児童」の設定とつまずきを想定した発問構成<br>④ICT機器等の効果的な活用<br>⑤ドリルタイム、家庭学習を活用した反復学習による学習事項の徹底<br>⑥「放課後学習」等での個別指導を通した学力に課題のある児童への支援<br>⑦全国学力・学習状況調査の結果分析による課題の把握、学習指導案へ関連を明記 | ①6月、夏季休業中<br>②学期に2回実施（取組期間は1週間）<br>③6月に校内研修実施、授業研究で重点的に取り組む、年間を通して実施<br>④⑤年間を通して実施<br>⑥「放課後学習」は週3回<br>⑦夏季休業中、授業研究で重点的に取り組む | 〇算数科単元末テスト、同一集団の伸び率、前年度比プラスポイント |
| 【学級・学習集団づくり】<br>〇全教職員が、児童全員が安心して生活できる学級づくりを行う。<br>〇全学級において、構成的グループエンカウンターを計画的に実施する。<br>〇SRを効果的に活用する。<br>〇全教職員が、児童同士がよさを認め合えるような学習の場を設定する。<br>〇全教職員が、児童への肯定的評価を継続して行う。 | ①QU結果の分析による、各学級・学年の課題の把握と改善計画の立案<br>②「生活のきまり」の徹底による、安心して生活できる学級づくり<br>③各主任会において、現状と課題及び取組内容の共有<br>④構成的グループエンカウンターの実施に向けた校内研修の実施<br>⑤授業や特別活動を通して、お互いの良さや違いを認め合える場の意図的な設定<br>⑥「できたこと」だけでなく、「がんばっていたこと」に視点をおいた、肯定的な声かけ | ①7月・8月<br>②4月に周知、年間を通して実施<br>③月に1回<br>④校内研修：夏季休業中　エンカウンターは月に1回<br>⑤⑥年間を通して実施 | 〇「学校生活満足群」に属する児童の割合の上昇<br>〇「学級生活不満足群」及び「要支援群」に属する児童の割合の減少（12月QU実施時に比較） |

3　令和6年度について

①調査から明らかになった課題

【学力調査について】
（NRTをうけて）
【国語】評定1の児童22名　正答率40%未満の児童51名　【算数】評定1の児童33名　正答率40%未満の児童51名
各学年での全国平均との差が大きかった問題は以下の通り
【国語】2年「紹介・感想を言う」（37%　全国比−26）3年「片仮名（ピューピュー）」（3%　全国比−33）4年「話し合い話題に合う発言」（44%　全国比−22）5年「発表・話す事柄の整理」（30%　全国比−21）6年「適切な接続語を選ぶ」（57%　全国比−20）
【算数】2年「等分すること」（51%　全国比−19）3年「かさの単位の換算」（33%　全国比−32）4年「乗法の適用」（27%　全国比−17）5年「表の変化の読み取り」（32%　全国比−23）6年「分速の理解」（18%　全国比−26）
（全国学力・学習状況調査をうけて）
●国語科「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝えあう内容を検討することができる」（50.7%　対県比−12.7）「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる」（69.3%　対県比−11.8）
●算数科「示された情報を基に、必要な数値を読み取って式に表し、判断する」（38.7%　対県比−11.5）「速さの意味について理解している」（44%　対県比−8.8）

②課題改善に向けた学校組織全体の重点取組等

| 重点取組(上記課題を踏まえたもの) | 具体的方策(継続して取り組めるもの) | 検証指標及び時期 |
|---|---|---|
| 【学力向上ついて】<br>・まとまった文章を書くこと<br>・四則計算の確実な定着 | ①全学年全教科等でのR8Oの実施<br>②ドリルタイムや授業で読み上げ計算を実施<br>③ユニバーサルデザインの授業づくり<br>④対象児童の選定や放課後学習の実施 | 〇算数科単元末テスト、同一集団の伸び率、前年度比プラスポイント（各学期末） |
| 【学級・学習集団づくりについて】口<br>・学習規律・学習環境の整備<br>・支持的風土の醸成<br>・安心できる居場所づくり | ①学習規律の徹底、重点取組期間の設定<br>②構成的グループエンカウンターの計画的な実施<br>③全学級でのK−13法を用いたhyper−QUの結果分析 | 〇児童アンケート「授業のは始まりと終わりのチャイムを守っていますか」「机の上や筆箱など、身の周りを整えて学習をしていますか」肯定的回答95%（7月、2月児童アンケート）<br>〇「学級生活満足群」に属する児童の割合の上昇<br>〇「学級生活不満足群」及び「要支援群」に属する児童の割合の減少（12月hyper−QU実施時に比較） |